

令和7年7月14日

備前市議会議長 西上 徳一 様

総務産業委員長 森本 洋子

令和7年7月7日、下記のとおり、議会基本条例第9条第4項の規定に基づく議会報告（意見交換）会を実施したので、報告します。

議 会 報 告 （ 意 見 交 換 ） 会 報 告 書

- 1 実施年月日 令和7年7月7日（月）午前11時15分から午後0時20分
- 2 相手方 一般財団法人備前市文化芸術振興財団
理事長（代表理事）大橋宗志
事務局長（常務理事）大森賢二
- 3 実施者 総務産業委員会 委員長 森本洋子
（担当委員会） 副委員長 丸山昭則
委 員 尾川直行 石原和人 山本 成
松本 仁 内田敏憲
列 席 議長 西上徳一

4 報告会の概要

令和7年7月7日、委員会室において、大橋理事長及び大森事務局長をお招きし、2月及び6月定例会後の議会報告（意見交換）会を実施しました。

備前市文化芸術振興財団の概要について説明をしていただいた後、委員からの質問事項を中心に、意見交換を行いました。

意見交換に係る主な内容は次のとおりであります。



【備前市文化芸術振興財団の概要について】

備前市民の文化活動の振興及び地域に育まれた伝統工芸「備前焼」の振興に資する事業を行い、個性豊かで活力ある地域社会の発展に寄与することを目的に、令和5年4月18日に設立された。

【財団で行うメリット】

- ① 文化施設管理運営の受託や事業受託により、行政のスリム化や市民サービスの向上が期待できる。
- ② 財団の設立目的に賛同いただける市民や企業等から資金的な応援を受ける体制が期待できる。
- ③ 文化振興に欠かせない中長期的な企画を練ることが可能となり、より魅力的な事業展開が期待できる。
- ④ 専門人材の育成や専門職員の配置により、企画力の充実と文化団体や市民からの相談体制が強化できる。

現在の執行体制は、理事長（1名）、常務理事（1名）、理事（6名）、監事（2名）及び評議員（6名）

財団の運営は、総務・経理、文化事業に携わる職員と、備前市美術館の館長、副館長、非常勤職員、パート職員及び7月1日から学芸員（4人）が市から財団に出向となっている。

非常勤職員、パート職員は、美術館の運営（展示室の監視員）、カフェの運営、ミュージアムショップ、入場券等の販売等の受付に携わっていく。

備前焼伝統産業会館に、非常勤職員1人が管理運営に当たっている。

【意見交換】

① 新理事長が決定した備前焼陶友会との連携活動について

これまでも友好関係は維持していたが、引続き連携を取っていきたい。

11日から2階に販売部門だけが戻ってきて備前焼の販売を再開することを聞いている。また、観光協会とも交渉中であることを市から聞いている。

備前焼の販売は陶友会にとって大きなことであることから、それに対し財団として何らかの力添えをしたいと思っている。販売自体は陶友会が行うが、伊部駅前に大勢集客することにより、陶友会の販売もアップすると思われるため、人をたくさん集める展覧会を行い、ひいては陶友会に貢献したいと思っている。

こども備前焼作品展等で陶友会に審査に加わっていただきいろんな協力関係を築いているが、今年3月、作家等にこれからの備前焼はどうあるべきか、販売戦略はどうあるべきかのトークセッションを開催した。その際にも、陶友会に集客の協力を依頼したりしている。今後とも、備前焼作家に役立つ公演会等を財団として行って、陶友会との連携を深めたことをやって行きたい。美術館の1階の展示室0で、陶友会等と一緒にになり、若手中堅の備前焼作家の展覧会を行って行きたい。

陶友会に入っていない作家との交流も積極的に行って行きたい。

② 入込客数5か年計画について

市では今年度3万人を目標としているため、財団としても開館は若干遅れているが、それに向けて努力していく。

③ 美術館を中心に、旧閑谷学校、北前船寄港地等どのような連携を考えているのか

備前市の宝であり、文化資産であると同時に大切な観光資産であると思っている。財団として単独では難しく、市の観光・シティプロモーション課に回遊ルートを作っていただき、それを積極的に市内外の観光業者にプロモーションしてもらい、それに財団もついて行くということで連携してやっていきたい。

④ 伊部地区との連携はどのように考えているのか

美術館は、伊部駅前にあり伊部地区の玄関口であることから、当然、伊部地区の備前焼に関わる方をはじめ、いろんな連絡・連携を日ごろから密にしていきたい。また、地区の行事等に積極的に協力したい。

⑤ 年間行事計画・企画の詳細、観客数の目標について

こどもオペラ、邦楽演奏会、弦楽コンサート、美術館のライトアップ、お茶席、備前の歴史展、定窯展、開館記念特別展等を計画している。また、市との共催として、こども備前焼作品展、備前市文学賞、論語かるたなどを行っていく。

金子館長は、備前焼の産地にある美術館としての特色を出していきたい意向である。

⑥ 令和6年度事業の評価について

前市長から備前市美術館の開館に傾注してもらいたいとのことで、それをメインにやってきたと同時に、市との共催事業として様々な企画を行ない、概ね目標どおりにできた。

⑦ 県内各施設(特に刀剣博物館及び他の博物館)との連携等考え方について

県外の方は、工芸としては備前焼、備前刀がまず頭に浮かぶため、何とか刀剣博物館との連携ができないか、具体的にどうするかというのはこれからのことになるが、一番に頭にあるのが刀剣博物館の連携である。

⑧ 市民との連携の考え方について

備前焼だけでなく、市民の文化・芸術の振興ということで、市内には優れた画家等文化・芸術に携わる方がおられるが、そういう方が発表されるのは岡山・倉敷の美術館や画廊であったため、市内でそういった方々の作品を見ることができなかったということで、例えば展示室0等でやっていきたい。そういったことを通じて市民の方々が、新しい美術館を身近に感じていただき、文化芸術を身近に感じていただけないかと思っている。

⑨ 備前焼伝統産業会館についての考え方は

市は、備前市伝統産業会館を、展示室を備えた備前市美術館の別館にするという考え方を打ち出されたが、その前提の下で指定管理者として手を挙げた。ただ、市の方針が変わり、別館にしないということになれば、財団としては指定管理をする必要がないと思っている。当会館の性格をどうするかにより財団の対応も変わってくる。

⑩ 備前市美術館に特化し事業を展開しては

財団の設立のきっかけは、新市発足20周年に合わせて美術館、図書館、市民交流施設ができることにより、文化環境が劇的に変わってくる中で、新しい時代に合わせた文化の振興を考えようということで財団をつくったので、美術館の運営だけでなく備前市民の文化芸術振興にも携わっていききたい。美術館を起点に美術館に留まらない文化事業を展開していきたい。

⑪ 瀬戸内市立美術館との差別化

瀬戸内市立美術館はいろいろな催事を行い人を集めている。ただ、備前市美術館は、館長の備前焼の産地に立つということから陶芸をはじめとする工芸に軸足を置いた美術館にしたいという意向の上で、絵画・彫刻・書道等他分野にも広がる美術館にしていきたい。差別化としては、備前焼を中心とした工芸が核になる。

⑫ 令和7年度収支予算書(損益計算ベース)より、経常収益、受取市補助金130,710千円及び受取市負担金120,000千円について

受取市補助金130,710千円は、文化活動事業として44,121千円、美術館の展覧会事業(ピカソの陶芸等)として53,710千円、法人の運営として32,879千円

受取市負担金120,000千円は、海外巡回展の開催に伴う負担金で予算計上していたが、今年度になり市設置の実行委員会で実施をすることから全て減額している。

⑬ 令和7年度収支予算書(損益計算ベース)より、経常費用、事業費、給料手当43,818千円、旅費交通費63,868千円、委託費106,186千円について

給料手当43,818千円の内訳は、事務局の職員(2名)、美術館と伝統産業会館の職員(非常勤8名・パート9名)。

美術館に関しては、館長、学芸員(4名出向)、非常勤職員(非常勤8名・パート9名)の22名で運営している。なお、館長の報酬は、財団の運営費用に計上している。

旅費交通費63,868千円のうち巡回展の予算が57,200千円、残り6,680千円の内訳は、文化事業と美術展覧会等の出演者・講師等の費用

委託費106,186千円のうち巡回展の費用を除く60,186千円の内訳は、文化事業に係る出演費用、舞台・音響・照明、会場設営等で10,283千円。美術館の展覧会に係る会場の設営費用等15,996千円。指定管理(主にエレベーターの保守管理、清掃等)に伴う委託費用33,907千円。

(財団からの要望)

どこの自治体も美術館・文化施設の開館の時は、予算も付けて盛大に実施するが、次の年から大幅に減額され四苦八苦している。本美術館も巨額の費用をかけてできた施設であるから、これをどのように生かしていくかを我々も当然考えるが、予算的な裏付けも次年度以降もぜひよろしくお願いしたい。